天文部の歴史・・・今年で創部60周年!



A棟屋上の20cm望遠鏡



知床観測隊の日食観察風景



1968年の観測風景



1977年頃の望遠鏡



A棟解体前のOBG会

1949年(昭和24年)天文部発足 顧問伊東荒雄先生 初代部長大野泰弘氏

1952年(昭和27年) OBG会発足

1954年(昭和29年)

8月 口径20cmトロートン式反射望遠鏡を20cm単軸赤道儀に改造、 第2グランド近くの通路横に設置。

1956年(昭和31年)

9月 火星20世紀最大接近を20cm望遠鏡で観測。公開観測に付近 住民も観望、連夜200名を越す。大小望遠鏡、部員大活躍。 1959年(昭和34年)

12月 豊多摩高校火災。天文部の望遠鏡7台をはじめ機材、観測 資料全焼。

1960年(昭和35年)

1月 現役、OB合同総会にて20cm望遠鏡再建決議。足立光学研究 所足立英一氏により20cm望遠鏡製作開始。

1962年(昭和37年)

10月 口径20cmカセグラン式反射赤道儀完成。A棟屋上鉄製格納 倉庫(スライド開閉式)内に収納。常時観測可能になる。

1963年(昭和38年)

4月 顧問橫倉弘先生。

7月 7/21日本で見られる20世紀最後の皆既日食を北海道知床 半島羅臼岳に遠征し、観測成功。部員15名、0B2名、引率2名。 食現象時刻確定、カラー写真、8mm撮影でコロナ、ダイヤ モンドリングの瞬間をとらえた。

1991年(平成3年)

A棟校舎建て替えに伴い、20cm望遠鏡を解体 1994年(平成6年)

7月 30cmニュートン式反射望遠鏡完成。

2000年(平成12年)

10月 OBG会のホームページを開設

2009年 (平成21年)

7月22日 豊多摩屋上で在校生とOBの合同日食観測



30cm反射望遠鏡天文台

